

# Withコロナ時代の福祉専門職を考える

## 福経協が勉強会を開催

福祉人材養成に取り組み全国27大学（私立26大学・公立1大学）で構成する「福祉系大学経営者協議会（丸山悟会長、福経協）」は、昨年12月3日に勉強会をオンラインで開催した。今回は全国社会福祉協議会の後援を得て実施。加盟校、社会福祉法人などから約110人が参加した。コロナ後の社会も展望しつつ、Withコロナ時代に求められる福祉専門職像について議論し、養成機関と雇用現場が連携して育成課題に取り組んでいく重要性について確認した。

開会にあたり、丸山会長（日本福祉大学理事）が挨拶。「本日、示唆された問題意識、発想を今後の福経協の取り組みに昇華させていきたい。そして、Withコロ

教授が講演。「コロナ後の社会の展望―持続可能な福祉社会を目指して―」をテーマに、①「分散型システム」への移行、②格差の是正と『持続可能な福祉社会』のビジョン、③ポスト・グローバル化とローカライゼーション、④『生命経済』の時代、⑤福祉思想の再構築の5点を述べた。最後に「コロナ後の社会の展望として、福祉という領域が、『広さ』と『深さ』の両面で重要性が増す時代と言われているのではないかと締め括った。

「Withコロナ時代の福祉専門職の育成を考える」をテーマにシンポジウムを実施。シンポジウムとして、全国社会福祉協議会古都賢一副会長、全国社会福祉法人経営者協議会研修委員会専門委員の菊池月香氏（社会福祉法人同愛会常務理事）、福祉系大学経営者協議会市川一宏理事（ルネール学院大学学術顧問）が登壇。コメンテーターを厚生労働省宇野楨晃社会・援護局福祉基盤課長、コーディネーターを日本福祉大学原田正樹副学長・教授が務め、Withコロナ時代に求められる福祉専門職像とその育成について多面的に考える機会とした。

「コロナ禍で、社会福祉で

「コロナ禍で、社会福祉で

「コロナ禍で、社会福祉で

職がますます求められ、そのための汎用力の養成も重要さを増している。福祉専門職の養成校のみならず、福祉現場ともより緊密に連携・協働し、これらの課題に取り組む必要がある。今後も引き続き加盟校と議論していききた」と挨拶した。